



自立活動だより

NO. 6

文責

自立活動支援センター

令和3年 7月 2日発行

東北地方も梅雨入りし、毎日曇りや雨の天気が続いています。このような湿度の高い季節は、カビや細菌が繁殖する季節でもあります。

最近、耳のかゆみや痛みなど耳のトラブルが増えているという報道がありました。この原因は、イヤホンです。四国大学・岡崎教授の調べでは、トイレの便座からは100平方センチメートルあたり最大1100個の細菌が検出されたのに対し、イヤホンからは最大2万4000個。便座の20倍以上です。この菌によって様々な耳のトラブルが起こったと考えられます。

本校の子どもたちは、起きている時間は補聴器や人工内耳を装着しており、イヤモールドを長時間、耳穴に挿入しています。このため、イヤホンと同じことが起こる可能性が高くなり、イヤモールドにも細菌が多く付着していると考えられます。この細菌を防ぐには、寝る前にウェットティッシュで拭き取るだけでもリスクを減らすことができます。また、週1回は、中性洗剤で丁寧に洗うことも大切です。

清潔なイヤモールドで耳のトラブルを防ぎ、毎日快適に補聴器や人工内耳を装着しましょう。



ていねいに、ていねいとは ～共感すること～

私たちが誰かに話をするとき、何を求めて話をするのかというと、自分の話に共感してもらいたいと考えて話をすることが多いです。この共感、年齢が低い子どもほど、子どもと関わる大人は大切にしていかななくてはならない事です。生まれたばかりの赤ちゃんは、まだ話す事ができません。しかし、母親は、子どもの泣き声を聞いたとき、「おなかがすいたのね。」とか「おむつが濡れて気持ち悪いのね。」といったように、赤ちゃんの気持ちに寄り添い、共感して赤ちゃんの気持ちを代弁して話しかけます。この共感関係は、言葉が育つ大前提です。

お子さんの話に丁寧に耳を傾けていますか。そして、共感しながら話を聞いていますか。更に、話を聞きながら、子どもが知らないだろうと思われる言葉をあえて投げかけて返す意識を常に持つことも大切です。例えば、お子さんが「かけっこで、一生懸命走ったよ。」と話してきた時、「一生懸命」を「力の限り」に言い換えて「そうか、力の限り走ったんだね。」というようにです。共感しながら新しい言葉にも出会えるように子どもに返してあげると、その言葉が子どもの気持ちにしみていき言葉がどんどん豊かになっていきます。



定期通院のすすめ

補聴器や人工内耳を快適に装用するためには、毎日の点検は欠かせません。また、定期的に耳鼻科へ通院することも非常に大切なことです。最低年に2回程度、かかり付けの耳鼻科に通院し、耳の状態や補聴器や人工内耳の状態を確認するようにしましょう。夏休み期間を利用し、ぜひ耳鼻科に予約を取っていただき、通院していただきますようお願いいたします。



